

久留米歴史物語

「見つけ守り、活かし伝える」

会期：令和4年7月30日（土）
～10月4日（火）

市内各地には、筑後川により育まれた歴史文化を背景とする様々な歴史物語（ストーリー）が広がっています。そのストーリーは多くの歴史遺産を生み出し、私たちは市内の至る所で見つけることができます。

それは神社や石造物、古墳、祭り、古文書、習俗・習慣など多岐に及び、これまで地域の方々によって大切に守り伝えられてきました。展示では、本市の歴史文化と保護の歴史、市民とともに歴史遺産を保存活用していくための取組みについて紹介しました。



展示会場の様子

《展示の内容》

今回、古代から現代まで幅広く、出土品や工芸品、様々な歴史資料を展示しました。久留米市の衛星写真、「久留米市鳥瞰図」（吉田初三郎、絹本原画）、「小銅鐸」・「権現塚古墳の人物埴輪」・「隈山2号墳の山柵玉」（いずれも市指定文化財）、「小野川才助化粧まわし」、「鬼夜の大松明」（実物の1/3レプリカ）、藍胎漆器、久留米緋、発掘調査で実際に使われる道具や図面などです。久留米の歴史を振り返り、そして市民の皆さんに「まちの宝もの」の情報提供を呼び掛けました。

《久留米市文化財保存活用地域計画》
本展では、久留米市の文化財保護行政における今後の指針となる「久留米市文化財保存活用地域計画」の



沢山集まった「まちの宝もの」情報

紹介も行いました。この計画では、

歴史遺産を活かし伝える新たな仕組みとして「筑後川遺産」登録制度を設けています。市民の皆さんが大切に伝え残したいと思うモノやコトを歴史遺産と呼び、共通のストーリーでつながる歴史遺産を「筑後川遺産」として、地域とともに保存・活用していくための制度です（地域計画の詳細は市ホームページ参照）。

《ワークショップ》

10月にはワークショップを開催しました。通町界隈を歩きながら歴史遺産を見つけ、歴史ストーリーを考えました。指定や登録された「文化財」だけではなく、地域で昔から伝わるもの全てが歴史遺産です。その遺産に気づいたとき、「見つけ守り、活かし伝える」物語が始まります。



まち歩きの様子

久留米大学・久留米市共催

「久留米俘虜収容所の風景」展

会期：令和4年10月9日（日）
～11月7日（月）

久留米市では、久留米に設置された俘虜収容所について、また、ドイツ兵捕虜と久留米のかかわりについてより多くの方に紹介するために、資料の収集や公開・活用などを行っています。

今年度は、収容所での生活や収容所での娯楽など5つのテーマを設け、久留米大学御井図書館が所蔵する写真や楽譜などの資料と、久留米市が所蔵する関連資料の展示を行いました。本展示会は、久留米大学と久留米市による初の資料展共同開催となりました。



本市所蔵のレリーフ（左）と煙草入れ（右）。
どちらも捕虜が制作した